



登山 月報

JMSCA 登山月報 第657号 令和5年12月15日発行



「初冬の日光白根山より男体山、中禅寺湖方面を望む」写真撮影(一社)栃木県山岳・スポーツクライミング連盟 専務理事(理事長) 芳賀真治

8月11日 みんなで山を考えよう!
 祝「山の日」
 全国「山の日」協議会 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.657

IFSCアジアユース選手権(中国・重慶)2023 報告	2
IFSCクライミングワールドカップ2023年 シーズン総括	4
第1回 アルパインクライミング懇談会 2023	5
静岡県開催 令和5年度登山部 指導委員会	7
登攀技術研修会、A級主任検定養成講習会、コーチ2養成講習会報告	
Enjoy Climbing	8
八木原園明様叙勲祝賀会	9
兵庫県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動	10
JMSCA山岳自然の集い2023 報告	11
寄贈図書	12
JMSCA、表紙のことば	13

IFSCアジアユース選手権 (中国・重慶) 2023 報告

ユース日本代表ヘッドコーチ 西谷善子

2023年10月18～22日に中国・重慶でアジアユース選手権が開催されました。コロナの影響により2019年に開催されて以来4年ぶりの開催でしたが、カンボジア、インド、カザフスタン、韓国、タイなどアジア13カ国・地域から選手100名余りが参加しました。国際大会に出場できる機会の少ないユース選手にとって、日本選手だけでなくアジア各国の選手にとって国際大会の経験を積む良い機会となりました。

大会では、リード・ボルダー・スピードそれぞれ単種目の他に、ユースAとジュニアカテゴリーで、ボルダー&リードのオリンピックフォーマットが行われ、日本は全ての種目でメダルを獲得し、金12個、銀9個、銅9個の合計30個のメダルを獲得することができました。

今大会では、世界ユースにはなかったボルダー&リード種目があったため、世界ユースの選考基準とは一部異なる方法で選考を行いました。世界ユースに参加することができなかった選手達が活躍する機会を作ることができたことは、次年度に向けて選手たちのモチベーションに繋がる良いきっかけとなったと感じています。

引き続き、強い日本のベースを作ってトップチームへ繋げられるようにユースからの強化を頑張りたいと思いますので、ご支援の程よろしくお願い致します。

優勝選手からのコメント

■鈴木音生

(ジュニア男子ボルダー・リード・ボルダー&リードの3種目で優勝)

私はユース卒業の年ということで、アジアユースが最後のユース大会となりました。今大会はボルダー、リード、ボルダー&リードの3種目で参加となり、3冠を目標に大会に臨みました。結果としては3冠することが出来ましたが、登りの内容としては満足できるものではありませんでした。今後はユースを卒業し、シニアでの戦いがメインとなっていきます。今大会の経験もこれからは生かし、まずは来年のLJCで日本代表を目指します。そして、ワールドカップで優勝できる選手になることを目標にトレーニングに励みます。

■高尾智那

(ジュニア女子リード・ボルダー&リードの2種目で優勝)

ユースCの頃から、アジアユース選手権に出場し、メダルを取ることに憧れていました。ユース最後の年にやっと出場権を獲得し、優勝で終わることができたのは本当に嬉しかったですし、今まで頑張ってきて良かったと思いました。今後はシニアで世界の舞台で登れるよう、トレーニング頑張ります！

■リードおよび、ボルダー、ボルダー&リード結果

ジュニア男子				
名前	所属	リード	ボルダー	ボルダー&リード
鈴木音生	静岡県立大学	1位	1位	1位
上村悠樹	東京都山岳連盟	2位	5位	4位
大西蛭雪	神奈川県山岳連盟	4位	7位	6位
ジュニア女子				
高尾智那	中京大学	1位	5位	1位
葛生真白	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	2位	3位	2位
小倉紗奈	同志社大学	5位	6位	3位
ユースA男子				
小俣史温	東京都山岳連盟	1位	2位	1位
和田樹怜	高知県山岳連盟	3位	3位	7位
寺川陽	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	5位	5位	6位
ユースA女子				
永嶋美智華	静岡県立静岡西高等学校	1位	1位	1位
山真奈実	三重県山岳・スポーツクライミング連盟	3位	3位	2位
望月萌叶	神奈川県山岳連盟	5位	4位	5位
ユースB男子				
長森晴	所沢市立山口中学校	1位	3位	—
戸田凌太	栃木県山岳・スポーツクライミング連盟	3位	1位	—
川口太造	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	—	9位	—
ユースB女子				
麦島心花	愛知県山岳連盟	2位	2位	—
松浦朱希	東京都山岳連盟	—	3位	—
狩野風	静岡県山岳・スポーツクライミング連盟	—	4位	—
久我心結	佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟	7位	—	—

■スピード結果

ジュニア男子		
名前	所属	スピード
三田歩夢	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	5位
阿部央彦	愛媛県山岳・スポーツクライミング連盟	7位
藤野柊斗	東洋大学	10位
ジュニア女子		
林かりん	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	5位
鈴木可菜美	日本大学	7位
ユースA男子		
上柿銀大	岩手県山岳・スポーツクライミング協会	5位
大石霸	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	8位
ユースA女子		
河上史佳	鳥取県山岳・スポーツクライミング協会	2位
ユースB男子		
石田観千	福岡県山岳・スポーツクライミング連盟	8位
竹久瑛	千葉県山岳・スポーツクライミング協会	10位
大杉金剛	岡山県山岳・スポーツクライミング連盟	11位
ユースB女子		
麦島心花	愛知県山岳連盟	2位

網掛けはメダル獲得選手、—は派遣対象外種目

■小俣史温

(ユースA男子リード・ボルダー&リードの2種目で優勝)

アジアユースは普段の練習の成果が十分に生かされた内容でした。不慣れなボルダー&リードではボルダーが終わった後のリードへの切り替えが上手くいき、優勝につながりました。貴重な体験だったため、これからの大会などに学んだことを活かしていきたいです。

■永嶋美智華

(ユースA女子ボルダー・リード・ボルダー&リードの3種目で優勝)

日本ユースでは決勝で決めきれずに順位を落としてしまう展開ばかりでした。だからこそ今回のアジアユースで予選の暫定一位を決勝でもキープし、3種目を3冠できたことはとても嬉しかったです。「決勝」への恐怖心が少しなくなり、自信に繋がる経験になったと思います。

す。今シーズンは公式戦での調子が去年より良くない事が多く出場に迷いもありましたが、得られるものがとても大きく出場して本当に良かったと感じています。今回の経験を活かし、来シーズンは更にギアを入れていきたいと思います。

■長森晴(ユースB男子リード優勝)

来年からシニアの大会にも出られるようになってくるので、自分の満足できる結果を残せるように頑張ります！

■戸田凌太(ユースB男子ボルダー優勝)

予選からからだ軽く、練習以上の力を発揮することができました。それは、自分の登りに対する大きな自信に繋がりました。今後は、ジャパンカップなどのシニアの大会でも通用する力を身に付けるために練習に励みたいと思います。



ジュニア女子ボルダー&リード表彰



ユースA女子ボルダー&リード表彰



ユースB男子ボルダー表彰



ジュニア男子リード表彰



ユースA男子リード表彰



ユースB男子リード表彰

IFSCクライミングワールドカップ2023年 シーズン総括

スポーツクライミング日本代表ヘッドコーチ 安井博志

2023年シーズンが最終戦の中華人民共和国・呉江大会をもって幕を閉じた。今シーズンも昨シーズンに続き、ほぼすべての大会の全種目で日本選手が大活躍し、表彰台に日本選手が挙がるのが日常的になったシーズンであった。シーズン中はケガをする選手も多く苦労して調整しながら大会参加を繰り返した選手もあり万全な状態で全戦出られる選手はそう多くなかった。併せて、またパリオリンピック予選が始まるシーズンということで各選手はオリンピックへの出場を目指し各大会でより良い順位を得るためストレスの強い環境下でシーズンを過ごした。さて、結果的には良いシーズンとなったのだが、初戦のボルダークライミングワールドカップ八王子大会では日本選手は松藤藍夢選手の表彰台のみとなり苦しいスタートであった。しかし、その後初のシーズンとなる安楽選手を初めとした若手選手が爆発し、それに負けないベテラン選手の奮起がチーム内競争を活性化させ、各選手のパフォーマンスに良い影響を与えた印象的なシーズンであった。またこれまで世界との差を感じていたスピード種目においても大政涼選手と安川潤選手が決勝進出の常連となり日本チームも強豪国と肩を並べるまでに飛躍したシーズンであった。

特筆すべき事を以下に幾つか挙げる。

—ボルダリングワールドカップ及びリードワールドカ

ップ男子個人年間ランキングにおいて安楽宙人が共に優勝（1シーズンで2種目の年間チャンピオンとなることは史上初の快挙）

—3名の選手が昨年に続き年間表彰

女子ボルダークライミング 野中生萌（2位）、男子ボルダークライミング 榎崎智亜（3位）、男子リード 本間大晴（3位）

—ボルダリングワールドカップ・国別年間ランキング

9年連続1位（2014年より、2020年は除外）

—リードワールドカップ・国別ランキング

2年連続1位

—男子スピード 初表彰台

大政涼（ヴィラルール大会&呉江大会 3位）

来シーズンはいよいよパリオリンピックとなります。ワールドカップでの転戦は各選手を大きく育てる重要な強化の場です。これまでの成果がパリオリンピックの結果や各選手自身の目標へ向かって自信や慶びに繋がれることを強く望んでおります。選手たちもさらなる目標を持ち来シーズンへの準備を始めました。選手達をサポートして下さっている皆様のご支援があってこそ選手たちはより輝くと思っております。関係者一同、感謝の気持ちを持ち上昇していきます。今シーズンも皆様のご支援のおかげで無事に終えることができました。本当にありがとうございました。



安楽選手（中央）、
榎崎智亜選手（右）



スピード日本代表選手達（Wujiang WC）



ボルダークライミング・リード日本代表選手達（Innsbruck WC）

IFSCクライミング ワールドカップ2023 国別ランキング

ボルダークライミング	
1位	日本 (19130pt)
2位	フランス (13908pt)
3位	アメリカ (12598pt)
リード	
1位	日本 (19985pt)
2位	スロベニア (12105pt)
3位	フランス (10393pt)
スピード	
1位	中国 (20355pt)
2位	インドネシア (18199pt)
3位	ポーランド (11786pt)
8位	日本 (5120pt)

IFSCクライミングワールドカップ個人年間ランキング一覧（日本人選手のみ）

種目	ボルダークライミング				リード				スピード				
	男子		女子		男子		女子		男子		女子		
種別	No.	順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名		
ボルダークライミング	1	1位	安楽 宙人	2位	野中 生萌	1位	安楽 宙人	4位	森 秋彩	10位	大政 涼	27位	竹内 亜衣
	2	3位	榎崎 智亜	13位	伊藤ふたば	3位	本間 大晴	5位	谷井 菜月	13位	安川 潤	29位	河上 史佳
	3	6位	緒方 良行	14位	松藤 藍夢	4位	小俣 史温	9位	久米乃ノ華	54位	池田 雄大	31位	林 かりん
	4	9位	榎崎 明智	18位	関川 愛音	6位	吉田 智音	14位	野中 生萌	56位	藤野 柊斗	39位	林 奈津美
	5	12位	通谷 律	20位	森 秋彩	7位	緒方 良行	19位	伊藤ふたば	65位	田淵 幹規	47位	金谷 春佳
	6	13位	藤井 快	22位	青柳 未愛	9位	樋口 純裕	20位	中川 瑠	65位	竹中 翔		
	7	18位	佐野 大輝	25位	中川 瑠	12位	百合草碧皇	31位	小池 はな	79位	谷井 和季		
	8	28位	井上 祐二	46位	久米乃ノ華	19位	鈴木 音生	43位	平野 夏海	113位	上祐 銀大		
	9	58位	百合草碧皇	47位	倉 菜々子	26位	上村 悠樹	52位	松藤 藍夢				
	10	60位	高田 知亮	55位	葛生 真白	41位	榎崎 明智	66位	柿崎 未羽				
	11	81位	関口 準太	56位	小池 はな	48位	榎崎 智亜	93位	大田 理姿				
	12	101位	小西 桂	71位	大河内芹香								
	13	106位	杉本 怜										
	14	113位	小俣 史温										

は年間表彰対象者

第1回 アルパインクライミング懇談会 2023

主催：国際AC委員会 令和5年11月21日



第1回アルパインクライミング懇談会 会場風景



左より馬目弘仁常任委員、講師の成田啓氏、鈴木雄大氏

第1回「アルパインクライミング懇談会」を「北海道からペルー！そしてパキスタンへ」というテーマのもと、20代のクライマー鈴木雄大さん（auFG、稲門山岳会、札幌北陵クラブ）、成田啓さん（北大山の会）のお二人を講師にむかえ、錦糸町すみだ産業会館において開催した。日高山脈（北海道）、ビルカノタ山群（ペルー）、ヒンドゥー・ラジ山脈（パキスタン）といった日本の登山者にはあまりなじみのない山域に、まるで「彼らのために残された」とさえ思える未踏の山、未踏ルートがあり、その厳しくも心躍る登山報告に、会場は静かな熱気に包まれた。

海外登山懇談会から アルパインクライミング懇談会へ

ところで、これまで「海外登山懇談会」として開催してきたこの事業であるが、今回から「アルパインクライミング懇談会」と名称を変更し、第1回として実施した。その背景として、いまの日本社会は、将来を担う若いクライマーたちが継続的に海外へ行って登山活動を行うのは困難な状況にあり、JMSCAとしても、国内の活動にもっと目を配り、新たな方向性や特筆すべきクライミングに光をあて、国内の活動からアルパインクライミングを盛り上げていく姿勢をもつ必要がある、と考えたからである。国際委員会を国際・AC委員会（ACはアルパインクライミングの略）と改称したのも、同じような理由によるものだ。今後は海外・国内問わず、アルパインクライミングをめぐる卓越的な活動や革新的な技術、また登山の普遍的な文化や歴史、地域研究などにもテーマを拡げ、事業を展開していく予定である。

面白いクライマーがいる

という次第で、懇談会の内容を検討していたところ、令和4年度「海外登山奨励金」の交付隊であった鈴木、成田両氏の「ペルー、アウサンガテ北壁初登攀成功」の第1報がJMSCA事務局にもたらされた。そしてクライマー、馬目弘仁常任委員によれば、この新進気鋭の2人は、北海道でも海外の活動に引けを取らない面白いクライミングを行っているのだという。ご存知のように馬目委員は、長らく日本の「ウィンタークライマーズミーティング（WCM）」の世話役を務め、地方の若手クライマーやその活動にも精通している。それなら刺激的なセッションになるのではないかと、期待が高まる。

自由な発想の新しい冒険、北海道が母胎

懇談会では、鈴木、成田両氏が2022～2023年に実施した以下3つの山行について報告が行われた。

◎北海道、日高山脈／コイカクシュサツナイ岳北面直登沢冬季初遡行 2022/12/10－11 メンバー：成田啓、宇野吉彦

◎ペルー、ビルカノタ山群／アウサンガテ6,384m北壁初登攀 2023/4/18－6/10 メンバー：鈴木雄大、成田啓

◎パキスタン、ヒンドゥー・ラジ山脈／ガンバル・ゾムV峰6,400m初登 2023/8/21－10/5 メンバー：鈴木雄大、西田由宇、成田啓

これらの報告は、一般的なプレゼンのスタイルをとらず、司会・進行役の馬目委員と鈴木、成田両氏、3人の掛け合いで終始進行した。「この山を選んだきっかけ



ペルー アウサンガテ ロープスケール8ピッチ分の長大な同時登攀のセクション

けは?」「使用した装備は? アイゼンはデュアル? モノ?」「山でないトレーニングはどんなことをやっている?」など、馬目委員はクライマー目線から両氏と会場参加者との橋渡しをしていった。

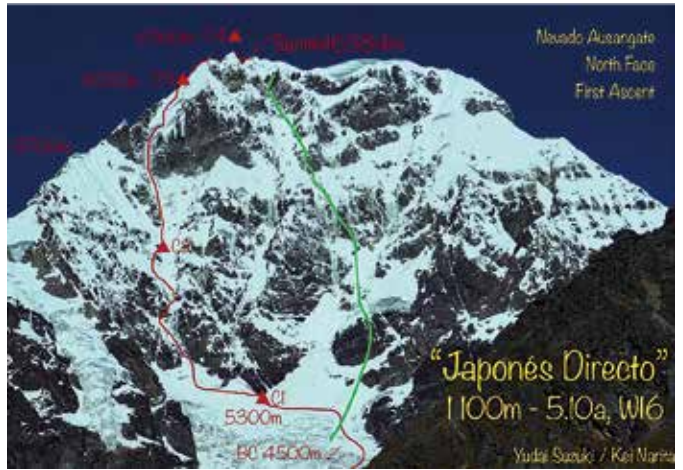
印象的だったのは、話の冒頭、まず2人が北海道の山の紹介を入れたいと希望したことだった。海外6000峰登頂成功のベースには、北海道における氷雪クライミングの積み重ねがあり、「これなら登れる」という登攀の確信は、この経験から導き出されたからだという。

アウサンガテのルートの中核部を(北海道雷電海岸の)「ナイル」と呼んだり、岩質や節理が(小樽の)「赤岩」みたいと表現したり、北海道のクライミングが、両氏の登攀イメージの母胎となっているのを感じた。

とはいえ、その北海道のクライミングは、単なる海外登山への「足がかり」なのではない。北海道はアイスクライミングのフィールドとして恵まれているが、有名な層雲峡も、雷電や雄冬などの海岸も、トップアウトすると平らな台地か雪壁に出てしまう。氷を登る行為にのみ純化せず、純粋にアイスクライミングをして山頂に立つ登山ができないものか、この発想がコイカクシュサツナイ岳北面直登沢冬季初遡行という形に結実していく。「沢を下部から詰めてピークにダイレクトに立つというラインの合理性、そのクライミングの内容、全てが理想的だった」(成田啓)

未踏の山に登ること

ペルーのアウサンガテも、パキスタンのガンバル・ゾムも、鈴木雄大氏が見つけた。どちらも鈴木氏がネットで偶然見かけた写真などがきっかけとなっている。しかし写真は出てくるものの、登山記録が見当たらない。「これだ!」そうやって探しあてたのが今回の山だった。鈴木氏が拘るポイントは「手つかずな、未踏の山」なのだ。以前、ある有名なルートに登った際、技術・



ペルー アウサンガテ ルート図
ハボネス・ティレクト

パキスタン ガンバル・ゾム
V峰5500m付近

体力・気力のすべてを出し切って登ったものの、トポに従っての登攀にどうにも満たされないものが残ったかららしい。ペルーの山もパキスタンの山も、いわゆるクライマーが狙うメジャーな山域から外れているのは、それ故なのだろうか。



たどりついたアウサンガテの壁を前に「この壁がクライマーに登れる対象なのか、何の保障もない。遙々ペルーまで来て、1ピッチも登らず敗退という可能性も大いにあった」という危うさの中、しかし二人は壁の細部を見ながら登攀ラインを絞り込んで行く。「未踏ルートのクライミングは、相方と共にラインを創り上げるこの時間が最高に楽しい」という。おそらく鈴木氏にとって「登山の創造性」とは、まさにそこにこそあるのだろうと感じた。

*

さて、今回の事業も試験的にZoom配信を行った。一部通信がダウンするなど不具合もあったが、参加者のコメントがリアルタイムで届くなど、Zoomならではの成果もあった。最後に参加者の内訳を上げておこうと思う。会場参加者45名(うちスタッフ・事務局14名、山岳関係団体所属20名、無所属11名)、Zoom参加者36名(メ切直後。うち山岳関係団体所属27名、無所属9名)Zoom参加者はメ切後も尻上がりに増え、遠方や仕事帰りの人が多かった。会場参加者に若手クライマーが目立ったことも加え、講師およびテーマへの関心の高さの現れを感じた。(国際・AC委員会 副委員長 鈴木百合子)

静岡県開催 令和5年度登山部 指導委員会 登攀技術研修会、A級主任検定養成講習会、 コーチ2養成講習会報告

令和5年11月4日(土)～5日(日)

静岡県において登攀技術研修会およびA級主任検定員養成講習会、コーチ2養成講習会が 静岡県 浜名湖近くの領家公民館及び息神社境内にて開催された。本来は愛知県豊橋市の立岩にて実技講習を実施の予定でしたが、残念ながら使用禁止となり、静岡県内に適した場所もないとのことで 宿舎となった領家公民館近くの息神社境内の立ち木を利用し開催いたしました。(神社の許可も得ることができ、講習前に神主さんに安全登山のお祓いも行っていただきました)

今回は研修9名、A級主任検定4名、コーチ2受講者18人、講師4名、静岡県スタッフ7名の 計42名での開催となった。

今回は、開催地 静岡県、近隣の愛知県、岐阜県他から多く参加いただきました。静岡県山岳・スポーツクライミング連盟の皆様には、大変お世話になりました。コーチ資格の全国での養成講習会の開催を期待し、また、登攀技術の向上も図りたいと思います。以下に参加者の代表の感想を掲載いたします。

(指導委員会 野村)

受講生感想

■静岡県 富士宮山岳会 大友 郁美

2023/11/ 4 - 5、「令和5年度登攀技術に関する指導者の教育と研修・主任検定員養成講習会A級及びコーチ2養成講習会」が静岡県にて開催された。私は、研修に参加した。

研修内容は、公民館での机上講習で、確保理論・制動確保模擬と、隣接する神社でのロープワーク実技講習などを行った。神社で実技を行う前に、安全登山のご祈願を行い、神主さんよりお祓い清めをしていただけるとい、とても嬉しい特典付きだった。2日間に渡る実技講習は、ロッククライミング中の事故に対する基本的技術とシステムの理解を目的としている自己脱出について学んだ。また、登り返し技術も何通りか学ぶことができとてもためになる時間だった。ロッククライミング中のビレイヤーとしてロープの送り出しなど普段行っている技術も、よりスムーズに安全に行うための工夫を学んだ。何度も行い 指導を受ける中で自分で自覚できる技術の向上を感じることができた。また、リードしている方が落下した時、少しでも負担を軽減させるためのビ



レイヤーとしての動きは、机上で学ぶだけでは理解しがたいことを実技で繰り返すことで学びを深めることができた。

後輩をきちんと指導できるリーダーになるために、講習を通して学んだことは、復習と反復練習を行って自分のものとしていきたい。

最後になりましたが、主催 主管スタッフの方々、講師の方々、研修に参加された方々へお礼申し上げます。2日間お世話になりました、ありがとうございました。

■山口県 宇部山岳会 林 竜海

JMSCAの講習会に参加するのは、2月に鳥取県の大山で行われた冰雪技術研修会に引き続き2回目の参加でした。今回は研修という立場でしたが、今回はコーチ2の養成講習会という事もあり、気が引き締まる思いでした。

何をするのかよく分からないまま勢いで参加をして、いざ練習の段階では戸惑うことも多かったのですが、講師の皆様と一緒に受講している方から優しく指導頂き、無事講習を終えることが出来ました。

講習会で習う事だけでなく、クライミング技術のことで普段疑問に思っている事などを質問すれば、どういった理由でそうするかなどまで詳しく教えて頂き、大変有意義な講習会となりました。

夜は懇親会。食べきれない程のおつまみに、飲みきれない程のお酒の数々！シャイな僕でもお酒が入れば皆



さんとお話ができるというもので、各地の山屋さんと熱い山の話が出来るのはとても楽しかったです。

中でも、同じ受講生の方から出た話が一番気になりました。今年は山岳遭難が非常に多く、山岳会に入っても山をする人は絶滅危惧種だというお話でした。裏を返せば、山岳会はやはり安全登山の為に必要なコミュニティなんだと再認識しました。

今回学んだ技術は、理論と経験に裏付けられた安全登山の為に必要な技術の一つだと思います。私が所属する山岳会で、早速伝達講習会を行う予定です。少しでも安全登山の普及に繋がれば、という思いです。

今回は講師の皆様、地元静岡の皆様のご尽力で無事に開催できましたこと、改めてお礼申し上げて締め言葉とさせていただきます。ありがとうございました。

Enjoy Climbing

パキスタン チャラクサ氷河クライミングツアー 2022 ⑥

佐藤裕介 記

7 P目 A 1 (15 m) 佐藤

素晴らしく綺麗なハンドクラックが続いているが触ってみると表面がポロポロと剥がれてしまってフリーで登るには少々無理があった。時間もないのでエイドで進む。結局、坂もっちゃうがユマーリングしている間にビレイなしで15m登り切ってしまった。短いがこの後、傾斜のないランペを経てから傾斜のある壁となり、ロープが屈曲してしまうので一旦ピッチを切る。今日最低でも到達したいと思っているコルまでは中々近づかない。各ピッチ想定していたよりもかなり厳しく、毎ピッチリードするのに時間が掛かってしまっていた。このピッチ以降もセカンドがユマーリングしてビレイ点に上がってくるまでに佐藤はセカンドのビレイを待たずにソロシステムを組んでロープを伸ばした。つまりほとんどレスト無しにずっと登り続けるようなものだった。

8 P目 5.10, A 1 (55 m) 佐藤

地上からもしっかりと見えていた立派な逆くの字クラックにやっと着いた。遂に美味しいピッチのリードだと歓喜のハッホーを叫んで超快適なハンドクラックを駆け上がる。一瞬で10mを楽しむと、いきなりワイド&草に阻まれ沈黙する羽目に。。。草が邪魔過ぎてテンション。草を超えても実は被っていてハンドフィストのリービテーションが多い得意のワイド登りだったが、中々進まなかった。キャメ4番と5番は1つずつしか無いので、プロテクションを満足に取れないのが辛い。それほど標高高くないとは言え5500m付近でのワイドはかなり苦しく、ゼイゼイ言いながら進んだ。いつもワイドなら任せておくとメンバーに言っておきながらテンションしまくりのしんどいピッチとなってしまった。

9 P目 5.9 (60 m) 佐藤

左に一段上がり大スラブから続く容易な30mを気持ちよく登る。

8 P目。傾斜強く難しかった。(8月5日)



同時懸垂で下降した(8月6日)

10 P目 5.10 a, A 1 (60 m) 佐藤

右に回り込みコーナーに詰まった土をナツキーで掘り出しながらカム中心のエイドで進む。後半はカム不足もありフリーで進むが、プロテクションを決めようと思っても土が詰まっていたりフレアしていたり使えないクラックが多くランナウトして緊張した。エイド中心のピッチではギアの玉切れが頻発してしまう。当初はフリーでサクサク進むつもりだったのでカムは2セット半程しか持参しておらず60mをエイドで進むには無理があった。もうカムは2個しか残っていないこのピッチ終盤は細いリス状のクラックが続いたので後半は小さなナツ連発で進んだ。初めてプラスナツの極小ナツ #2を使った。2時間以上のリードとなった厳しいピッチ。

11 P目 5.9, A 1 (55 m) 佐藤

カムでのエイドが続くが一部ハング状で傾斜が強い。もう夕暮れが迫り少し焦りがでて1フォール。膝を打って少々悶絶。まあ、ここで交代しても辛いのはみんな同じだからと頑張る。後半傾斜が弱まってからのクラックは快適になったがノーヘッドライトで来てしまったことを後悔することになった。闇に包まれながらなんとかコル手前のピークに立った。2時間以上のエイドピッチが続きもうヘトヘトだ。

8月6日ビバーク地(7:00) - 取付(12:30) - BC(14:30)

本来のピークは遙か彼方に見える。氷河から見上げると後半は傾斜も落ちてコンテ中心で行けるのではと思っていたが、実際は下部同様にぶっ立っていた。今までのペースを考えれば今日中にピークに到達することは到底不可能だ。夜から降り出した雨は断続的に降り続いていた。早朝起きた頃でもテントを雨がパラパラと叩いていたので迷うことなく下降を決めた。ゆっくりと

出発した頃には雨は上がっていたが岩は濡れていて滑る。概ねビレイ点と同様のアンカーで懸垂した。下降用に残置したギアはナッツ3、ピトン2。他は残置ピトンや岩角利用で下降した。合計10回ほどの懸垂下降で取り付きに到達。余っているフリーズドライ食品を軽く食べて下山した。チャラクサ氷河本流を下っていると、多分暇だったので散歩していたらしきキッチンボーイ・シキャンダールとバツタリと出会う。元気な若者で一番重かったホールバックを背負って一緒に下りてくれた。「いやー助かっちゃうなあ。」佐藤は軽い荷物でBCまでの道のりを楽しんだ。早くも次回のチャラクサクライミングツアーをどうしようかとメンバーと話しながらBCを目指す。

8月7日 BC 片付け

目標としたナフィーズキャンプの頂上に届かなかったのは残念であったが、僕自身は切りの良い中間部のピークまで行けて、「僕らの出来ることは出し切った」とスッキリとした気分でBCに戻ってきた。

「チャラクサクライミングツアー」の遠征隊名に相応しい楽しさに溢れるツアーになったと思う。登ったルート情報はそれ程無かったがいずれも既登ラインだった。正直クライミング界として記録に値するような登攀は

無かったと言える。でも僕らはそれを目指して旅を始めた訳ではなかった。

「初登でなければ」「価値のあるクライミングをしなければ」

割と自由に登山を続けてきたが、かつてそれを全く感じずに遠征登山をしたことは無かったのだと思う。やはり誰も登ったことのない初登ラインのトライは、未知の課題に取り組む厳しさと楽しさが確実にある。またそういうトライをしてみたい気もあるけど、「チャラクサクライミングツアー」の様な本当に自由に楽しさを求める旅があっても良い。

午後になってK7隊が無事BCに戻ってきた。本当に良かった。本気トライをする他パーティーの帰りを待つという経験はあまり無かったのだが、リスクをある程度想像できてしまうこともあり非常に不安な時間だった。彼らも目標には一步届かなかったが充実のトライだったようだ。

どちらのパーティーも最終的な完登には至らなかったが、全員無事に山を下りることができた。

「未来に続くトライが僕らには待っている」

それは何よりも大事で歓迎されることだ。今から次の遠征が楽しみである。

八木原 園明様 叙勲 祝賀会

日本山岳・スポーツクライミング協会前会長の八木原顧問が、永年に渡り日本の登山界に寄与されたご功績により、今和5年春の叙勲において、旭日小綬章受章の栄に浴されました。その栄誉を称え、喜びを分かち合いたいとのことで、叙勲記念祝賀会が、10月29日(日)午後3時30分から、東京アルカディア市ヶ谷伊吹の間で、行われました。

JMSCA 蛭田副会長の開会の言葉、丸会長の発起人挨拶ののち田中顧問が祝辞を述べられました。その後、



ご来賓を代表して、山森日本ヒマラヤ協会会長よりご挨拶をいただき、八木原顧問が謝辞を述べられた後、川嶋日本勤労者山岳連盟理事長による乾杯により懇談が開始されました。

関係団体、顧問参与、岳連の代表の方々、理事も参加され八木原顧問の幅広い人脈と、温かいお人柄を垣間見るとともに、JMSCAの登山、スポーツクライミング、山岳スキーを発展させるべく、これからも見守っていただければ幸いです。
(記：赤尾浩一)

兵庫県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

兵庫県山岳連盟自然保護委員会では、少人数ながら「自然と歴史山歩」と名付けて毎年度6～7回程度活動しております。

方向性は、①自然観察②地理歴史③清掃登山の3本です。なお、六甲山は一部が国立公園内にありますので、環境省神戸自然保護官事務所からアクティブレンジャーのご参加をいただき、自然に係る講義を受けております。

①自然観察

・植物

ミツマタ、コバノミツバツツジ、ススキ等の群生地があるコースを選定しております。

・動物

神戸市内でもクマやイノシシ、ニホンジカが出没し、人や植生等への影響が心配される場所です。ニホンジカにつきましては既存植生への影響が大きいことから全国的にも課題となっておりますが、令和5年10月21日に近畿地区山岳連盟自然保護委員研修会で受講した「ニホンジカによる下層植生への影響」についての講義を参考に、山岳連盟としてどのような対応が取れるのか検討していきたいと思っております。

なお、明るい話題としては、長距離の渡りをする蝶として有名なアサギマダラの観察を、令和5年9月30日に六甲山頂に至る登山道で開催し、フジバカマに止まる

のを確認することができました。

②地理歴史

兵庫県下に残る岩尾根や修験者の修業の場であったぎょうば行場・旧国鉄の廃線跡を歩く事で、自然の成立ちや山岳宗教及び歴史について学んでいます。

③清掃登山

兵庫県下の登山道では、現在も各地域の山岳団体が単独で清掃活動をしており、以前よりゴミは減少しておりますが、登山道沿いの林道やドライブウェイ等の見えにくい場所に意図的な不法投棄が見られるのは残念なことです。

兵庫県山岳連盟でも六甲山・摩耶山・雪彦山に至る山道で清掃登山を企画しておりますが、活動を推進するにあたり、参加者それも若い世代が少ないのでHPや機関紙(兵庫山岳)を通じて如何に広報していくかが今後の課題となっております。

また、登山道の整備についても、神戸市が管理する「太陽と緑の道」の倒木処理や下草処理を個人レベルで担当しておりますが、地権者等との調整を含め行政等へ数々の問題提起を行う必要があると考えております。

ほかにも兵庫県山岳連盟は、国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所所管の「森の世話人」として、神戸市東灘区本山町野寄の南斜面で森林整備を行っております。(兵庫県山岳連盟自然保護委員長 日野幸次郎)



環境省アクティブレンジャーによる講習風景



清掃登山(摩耶山掬星台)



フジバカマに集まるアサギマダラ

JMSCA山岳自然の集い2023 報告

11月23日午後12時30分より「全国自然保護委員長会議および山岳自然の集い」(以下「集い」)を開催した。コロナ禍で2年続けてオンライン開催であったが、今回はJ S O Sビル会議室での対面とオンライン併用により、全国27の都道府県から50名の連盟・協会の自然保護委員長および自然保護指導員の参加があった。

会議の冒頭、2021年の集いで全国の自然保護委員会の地道な山岳環境保護・保全活動をアピールするために決議され、沖縄県からスタートした『登山月報』のリリース掲載がこれまで20県途切れることなく掲載されていることが報告され、最終の北海道まで連載していくことが改めて確認された。続いて、事前に参加の都合のつかない3県も含めた20都道府県自然保護委員会から提出された2022年度集い以降の活動報告書を整理、活動分野毎に概観した。

- ①「登山道整備」に関し、昨今の気象災害やオーバーユースによる洗掘や階段・路肩の崩れなど登山道の崩壊は著しく、急ぎ整備しなければ危険な山道、道迷いが起こりそうな勝手道も目立つが、何処の山にも地権者がおり、整備許可申請を如何に円滑に行うか、また整備方法として近年脚光を浴びている「近自然工法」の技術習得の研修会や整備にかかる費用捻出のための補助金申請に苦慮しているとの報告が多数あり、いずれも自然保護委員会単体ではなく、岳連内の他の委員会、市民団体や行政をも巻き込んで事業を進めている。
- ②「植生保護」に関し、コロナで活動が停滞していた間に温暖化の影響もあり保護対象の生育環境が大きく変化してしまったという報告、一方コロナ禍でも絶滅危惧種の調査や保護の一環として外来種の駆除活

動を進め成果を実感しているとの報告もあった。この活動も継続的に実践していくために地域や行政と連携することが必須であることが強く読み取れた。

- ③「観察会」に関しては、一般市民を対象にした観察会の報告が多い中、バリエーションルートでの「岳人ならではの観察会」や少年少女登山教室も併せて大人数での観察会実施、広い山域を繋げての大規模に開催された観察会の報告もあり、これらも行政やレンジャーと協働、補完し合う関係で活動が継続されている。
- ④「研修及び認定作業等々」。自然保護指導員が研鑽を重ねるための研修会を単体の委員会ではなくブロック単位で持ち回りで開いているとの報告、岳連の他の委員会と協力して自然保護だけでなく登山技術の向上、遭難防止や安全登山の啓発も含め、コーチ資格や夏山リーダー資格も併せ指導員の資格を拡充させ委員会活動の活発化を図ろうとしている。

コロナ禍3年に及ぶ活動の停滞後、各県様々な問題を抱えながらも活動を再開された様子が伝えられた。

代理を含む出席頂いた自然保護委員長からの自己紹介及び報告フォームに記載しきれなかった各種の問題点などを提議頂いた後、特徴的な3つの委員会からの報告を受けた。千葉岳連では2019年の度重なる台風被害で壊滅的な影響を受けた登山道を岳連、労山、日本山岳会等々で「房総の山復興プロジェクト」を結成し再生に当たっているとの報告、徳島県での近自然工法による登山道整備を試験的に行い本格的活動の準備を進めていたが、助成金申請の窓口担当者が代わり承認がもらえず活動が止まっている状況との報告、鳥取県からは大山での一木一石運動は全国的に知られた活動で



全国自然保護委員長会議



山岳自然の集い

山頂の植生回復も成果を上げている。また、中国5県ブロックの自然保護研修会を当番県として開催、自然保護委員以外の方々も参加され、行政や地元企業の協力を得ることができたとの報告があった。いずれも全国至る所の山域で、あるいは地方岳連に共通する課題であり、その後の質疑や会議外での雑談の中でも繰り返し話題となった事例である。

今回のメイン企画は、「登山行為がもたらした浸食や裸地化した登山道における登山者自身による保全活動」と題した基調講演。長年に渡り飯豊・朝日連峰の登山道を若者を含めた登山者を組織して護ってこられた山形岳連井上邦彦理事長から、高山帯と樹林帯における具体的な工法、一般登山者との協働作業、日本における登山道維持管理の課題と留意点を中心に大変興味深いご講演を頂いた。荒れた登山道をどう整備していくかは各地で問題となっており、出席者から出された様々な質問に対して経験に基づいた具体的な回答を頂き、活動を大きく前進させる示唆となった(なお、井上講師への追加質問もお受け頂けます。連絡先を講演の抄録とともにJMCSAのWEBに掲載します)。

さらに会議は「自然保護指導員制度」についての改革案についての討議に進んだ。現在JMCSA自然保護委員

会(委員会)では規約改正も含めて自然保護指導員制度の見直し作業を行っているが、その検討状況をWGリーダーの山本委員から説明があり、委員会が提案する制度改革案につき質疑応答を行い、概ね改革の方向性につき理解を得られた。今後は規約改正を含む具体的な改革を委員会で検討していくこととなった。

制度改革の議論中にはお出かけ先からオンライン参加されたJMCSA丸誠一郎会長からも、現在世界中の登山界で「自然保護」の存在価値は大きく、全国の自然保護指導員の活動に期待を寄せているとのメッセージが贈られ、最後は前田主管理事からJMCSAの現状報告も含めたご挨拶を頂き、予定の議事を終了した。

*

翌24日、4年ぶりにエクスカージョンが復活。秩父多摩甲斐国立公園の特別保護地域として保護されている奥多摩三頭山と現在再開発問題で揺れている『外苑』も含めた神宮の森で、それぞれ「自然」の利用と保護について語り合った。

なお、総会報告および関連資料は順次JMCSAのWEBページにUPしていきますので、ご覧頂きたいと思います。

(自然保護委員長 小高令子)

寄贈図書

(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No. 547	会報
特定非営利活動法人日本トレーニング指導者協会	「JATI EXPRESS」No. 97	会報
愛知県山岳連盟	「愛知岳連ニュース」第450号	会報
兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第677号	会報
日本スポーツ協会	「JSPOスポーツニュース」Vol.152、「JSPOフェアプレー」Vol.152	会報
(公社)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」No.405	会報
(一社)愛知県山岳・スポーツライミング連盟	「愛知岳連ニュース」第450号	会報
明治大学山岳部 炉返会	「炉返通信」No.203	会報
東京野歩路会	「山嶺」Vol.101 No.1125	会報
おいらく山岳会	「山行手帖」No.768'23.12	会報
(公社)日本山岳会	「山」11月号 No.942	会報
(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」特集 山選びと計画～安全登山の基本～ No.918	情報誌
(株)山と渓谷社	「山と渓谷」12月号No.1071	情報誌
(公財)日本スポーツ協会	「Sport Japan」Vol.70	情報誌
(株)山と渓谷社	「院長が教える 一生の登れる体をつくる食事術」	寄贈本
(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」No.2414 第2416号	新聞



- 日 時：令和5年10月19日(木)
13:00-16:40
- 場 所：J S O Sビル3F会議室1と
Webのハイブリッド会議
- 出席者：丸会長(議案第1号から参加)、
蛭田、飛松、吉田、山本各副会長、小野寺
専務理事、古賀、赤尾、町田、栗田、望月、
安井各常務理事、前田、野村、山口、小高、
中橋、佐藤、小田部、畑中、島田、中島、
樋口各理事 以上23名。古屋監事 以上
1名。オブザーバー：百瀬競技委員長
- 欠 席：濱田常務理事、小日向・杉本・
西谷・平田・水村各理事、佐久間監事

1. 開 会

2. 丸会長挨拶：特になし。

3. 会議成立状況報告

理事数29名中23名出席、監事数2名中1
名出席(定款第33条、定足数=15名(1
/2超、決議は出席理事の過半数をもっ
て行う。)

4. 議長選出

丸会長途中からの出席により小野寺専務
理事が議長を務める(定款第32条)。

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題(注. 丸会長途中出席により、報 告1号から行なった。)

議案第1号 B J C開催地について

町田S C部長が、配布資料を基に、従来と
異なる競技場(2月10、11、12日を予定)を
B J C開催候補とし、他の候補地との収支比
較表を見せながら、以下の追加説明を行い、
その後質疑応答があった。

*新たな候補地は補助金収入が見込め、J
M S C A金額は、より少ない金額で開催で
きる可能性がある。前回決議された借入
がうまくいけば、運営資金の目途が付きや
すくなる。

*支出見込で委託費が多くなっているのは、
現行業者(別の業者に変えられない)の移
動費用が発生するため。

*従来の場合をキャンセルする場合の費用
(駒沢キャンセルによる)は織り込んでい
ない。当県に決定したときには、スポン
サーがらみの違約金が発生する可能性が
ある。(補注：後日、町田S C部長が、博報
堂D Yと確認した結果、違約金等は発生
しないことが判明した。)

*L J C、S J C/S Y C(2月23、24、25日)
と同じ場所で開催することによる金額削
減分は、当収益表に織り込み済。

*大会施設費1,000万円を超えているが、
過去の実績を加味してまとめている。

今回の候補地をもとに新たに見積もりを
依頼して、詳細をまとめて明示することは可
能。

*予算執行管理に関する運用規律で100万
円を超える場合には複数業者から見積も
りを取るようになってきているが、確定して
いない中での見積もり取得は難しい。

*行政側では、誘致に積極的で、強力なバツ

クアップ体制を期待できそうである。

*今推奨案を選択するならば、早く行政に
情報を伝達した方が良い。結論を先送り
することはよくない。

*現状の選択肢では、今提案は最もJ M S C
A負担が少なく見えるが、まだ、300万円
資金が足りないのので、S Cに限らず、理事、
各委員長は300万円を捻出する必要がある
ことを肝に銘じて判断をしていただきたい。

*行政の補助金を収入として見込むならば、
今月中にJ M S C Aの態度を決めて、行政
側の11月の補正予算組み込み対象として
いただく必要がある。

以上の協議後、3つの選択肢から採決
を取り、案1の方向で進めることになっ
た。

案1 新競技場での開催 20名
(議長入れたら21名)

案2 旧場所(駒沢)開催 0名

案3 中止 0名

棄権 1名(赤尾事務局長)、
1名(前田理事離席)

議案第2号 赤字検証委員会提言の対応に ついて

赤尾事務局長が、前回理事会で、赤字検
証委員会が報告し、提言した5項目につい
て、だれが、いつまでに対応したら良いかの
素案の説明をし、以下の質疑応答があった。
(会長が提案した理事、監事向けのアンケ
ート記入を依頼することについて)

*顧問参与会にも、基金の話をする必要が
あり、いくらくらい役員で集めるかとい
うことを話し、納得していただける説明が必
要。

*岳連や顧問、参与の方にも応援団として
支持していただけることが重要。

*任意で記入する。

*理事一人一人による決意表明より提言項
目に対応した対策の中身を充実すべきで
はないか。

*しかし、アンケートということならば、決
意表明の内容でよい。

*アンケートフォーマットは別途作成。
(提言項目ごとの担当者について)

*表中の左上が提言毎のリーダー案

1. 収支相償原則を前提とした事業運営の
履行及び、収支の徹底管理

リーダー：町田S C部長・古賀登山部長
メンバーの追加：畑中理事を加える。

また、重大な規律違反の疑義ある対象
者の責任に関しては、顧問弁護士・監事
等による調査を検討すべきという提言に
対しては、山口理事、古屋監事で検討して
いただく。

2. 常務理事会、理事会の機能強化

リーダー：丸会長、メンバーの追加：副
会長4名を加える。

3. 理事に対する公益法人に関する再教育
リーダー：山口理事 メンバーの追加：
古屋監事

問題点を明確にし、それに合わせた教
育内容、方法を検討したほうが良いので
はないか。

4. あらゆる収入調達手段の実行

リーダー：蛭田副会長
メンバーの追加：中橋理事、赤尾事務局長

5. 事務局・委員会における管理強化

リーダー：小野寺専務理事

尚、10月末までに、対策案と期限を提出
する。11月9日の理事会で承認を得、臨時
総会(11月26日)で説明できるような日程
を提示し異議なく承認された。

7. 報 告

(議案に先立ち最初に報告から始めた)
報告第1号 J S C中央競技団体ガバナ
ンス診断について

赤尾事務局長が、配布資料を基に説明した。

上部団体の審査を受審した協会につい
て、ガバナンスに関する現況の評価と、その
結果をフィードバックすることで、より良い
運営を支援する目的で行われる。

方法はアンケート方式で、36問、15分程
度の所要時間。その後、報告書がまとめら
れ、診断結果を踏まえて、要望に応じて専門
家の改善支援を得られる。当診断にかかわ
る費用負担はないので、実施することを報
告した。準備ができ次第、理事監事に伝達
し、協力を仰ぐ。

報告第2号 八王子BWC収支状況について

町田S C部長が配布資料を基に説明した。
支出は、当初予算より1,600万円強多かつ
たが、収入自体も、予算より2,500万円強多い
見込みなので、収支差自体は、予算以下(マ
イナスの幅が少ない)となっている。

J S C補助金は、収入として最低でも2,
380万円を見込んでいます。マイナス(J M S
C A持ち出し)が小さくなったのは喜ばしい
ことだが、支出の見込みが、当初予算を超
えることが予想された際に補正予算提案が
されなかった事が問題である。

報告第3号 Y F C収支状況について

町田S C部長が、今後、競技会が終了し
たら2か月を目途に報告するようにしてい
きたいと伝達した。また、配布資料を基に、
Y F Cの収支状況を説明した。当初予算よ
り、実際の収益は少なめだったが、支出も業
者等の協力もあり、低く抑えられた。結果的
に、J M S C Aの持ち出しは、予算より60万
円少なく済んだ。大会施設費は、100%免除
してもらったので、支出ゼロとなった。

報告時に、良かった点、うまくいかなか
った点も併せて述べられると、なお、良い
とのフィードバックがあった。

8. その他

・赤字検証委員会(第3者委員会)の報告開
示の検討について。

開示する場合にはどこまでの内容を、ど
ういう手段(H P、月報など)で広報するか
を理事会で決定する。

・篤志家への借入依頼についての報告
借入条件として、理事の責任の取り方を
明確に示してほしいといわれている。

・現状のキャッシュフロー状況で1月以降
の資金確保の目途がたっていない中、
1月以降の執行何いの案件がきている。
→条件付き承認とする。(資金確保がで
きない場合には取りやめの可能性がある
ことを条件とする。)

・専門委員の任命があいまい。報告だけで
良いのか。従来は、慣行として委員会で
承認されればよく、常務理事会や理事会
での報告は不要だったので、それを踏襲す
る。

以上

令和5年10月19日 記録 赤尾 浩一

かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼれ

日光白根山2578mは関東以北の最高峰で栃木県側からは日光湯元温泉、金精峠、群馬県側は菅沼口、丸沼スキー場側からの登山となる。初冬でも積雪や凍結がありアイゼン、ピッケル等の冬山装備は必携である。

頂上付近から天候の良い日には女峰山や男体山などの日光連山、尾瀬や会津、上州の山々、遠く富士山も見える360度の絶景が堪能できる山である。

(一社) 栃木県山岳・スポーツクライミング連盟 専務理事(理事長) 芳賀真治

編集後記

11月26日、JMSCAは臨時総会を開催し、赤字検証委員会からの報告が行われました。この報告では、組織のガバナンスにおける機能不全、コンプライアンス意識の欠如、コミュニケーション不足などが指摘され、それに対する具体的な対策も発表されました。

登山月報には理事会報告が掲載されています。読者時代はあまり読んでいなかったのですが、読んでみると、JMSCAの事がいろいろ書いてあります。読んでいない方は、ぜひ一度目を通していただければ幸いです。

(松本光顕)

トレランJAPAN
一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1
北丹沢山岳センター内
URL: <https://trailrunning.or.jp/>
※現在、非常勤の為電話番号は非公開とさせていただきます

登山月報 第657号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
(毎月1回15日発行)

発行日 令和5年12月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

[山岳雑誌] 山と人、時代をつなぐ

岳人

1月号

特別
編集

冬の山

発売中

★モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



モンベルクラブ入会キャンペーン実施中!

▶年間購読が断然おトクに!

年間購読通常特典 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

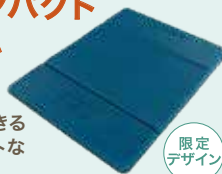
さらに モンベルクラブ会員さまには モンベルポイント **5,000P** プレゼント!

モンベルクラブ会員さままで現在年間購読中の方は、次回継続時に5,000ポイントをプレゼントします。

年間購読特典

岳人コンパクトフォームパッド

手軽に携行できる軽量コンパクトなパッドです。



限定デザイン

岳人カード

全国2,000カ所以上で
ご優待!



全国の温泉や山小屋など提携施設でさまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>

<https://www.gakujin.jp/>



全国のモンベルストアでも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2022年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2023年6月9日)

発生件数	3,015件 (前年対比 380件増)
遭難者数	3,508人 (前年対比 431人増)
死者・行方不明者	327人 (前年対比 44人増)

